

言葉で論理的に思考
言語活動の充実
 学校図書館を活用し
 学びの基盤である
 言語能力・読解力
 を向上させる

『確かな学力』の土台となる言語活動

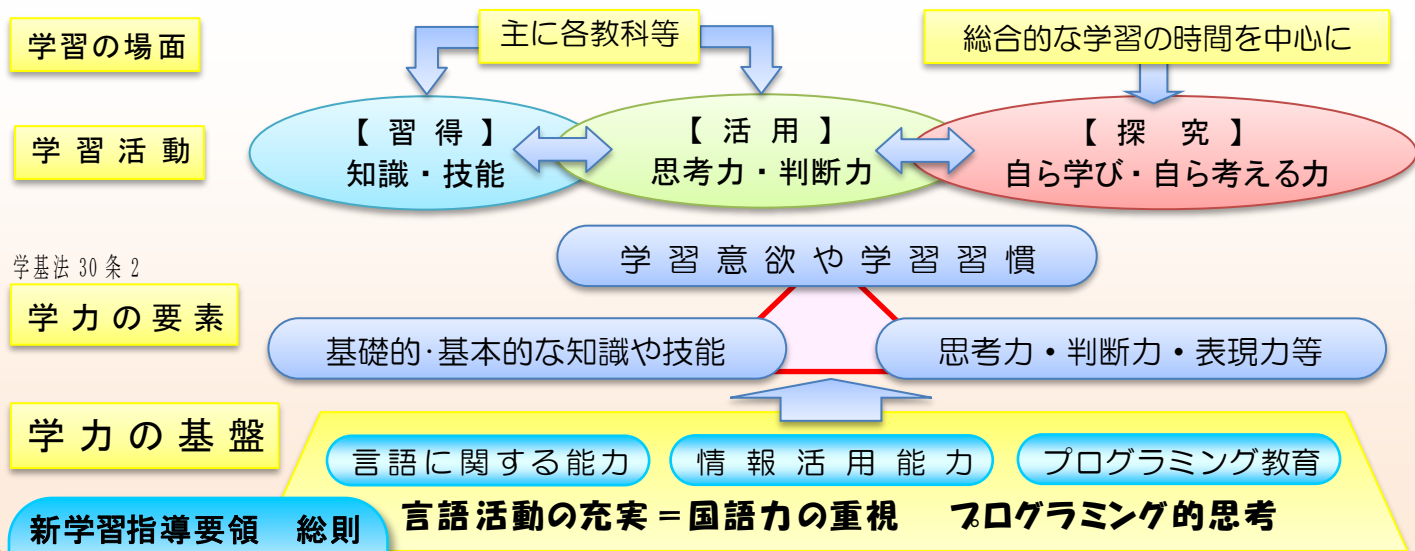
《言語の力》

「知的活動（論理や思考）」
 「伝え合い（コミュニケーション）」
 「感性・情緒」

としての言語
 の道具としての言語
 の基盤としての言語

「生きる力」を育む『確かな学力』の育成

平成10年度以前からも
 基本的な考え方は同じ



《言語活動の手だて》

- ・語彙を豊かにする → 学習指導のあり方を変えていくこと
- ・読書活動の推進 → 学校図書館の活性化
- ・学校における言語環境の整備 → 活字に親しむ学校づくり

学校図書館から教育を変える 本校の学校図書館が果たす「3つの役割」

学校図書館は、読書を通じた豊かな心の育成とともに、確かな学力の基盤となる重要な役割を担っています。学校図書館が育てる力は「生きる力」に資するものであり、生涯にわたる学習の基盤形成につながるものです。そのため、本校の学校図書館には、次の機能をもたせています。

読書センター

想像力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場。

学習センター

子供たちの自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたり、探究的な学習をする場。

情報センター

多様な学習資料やICT環境で児童や教職員の情報ニーズに対応したり、児童の情報収集・選択・活用能力を育成したりする場。

「学び方を学ぶ学校図書館」の力を活かす

つまり、学校図書館は単なる「本を読む場所」ではなく、各教科等の授業における課題解決的な学習、探究的な学習、新聞を活用した学習等を通じて、子供たちの言語能力、情報活用能力、問題解決能力等の育成を支えています。主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤なのです。

興味・関心等に応じて主体的に学習内容の背景を探ったり、学習の到達点を認識したりする。

児童自ら問いを見いだして、解決したり、自己の考えを形成し表現したりする。

推論する力や見通す力などを身に付け、これまで経験したことのない状況にも対応できる。